



兵庫県加古川警察署長
しおい まなぶ
 警視正 塩井 学 さん

市民に寄り添った活動で 安心安全の街に

本年4月に加古川警察署に署長として着任された塩井学さんに、管内の現況をお伺いしました。

交通事故の多くは「交差点」「自転車」「高齢者」

加古川警察署は約420名の署員数を抱える県下最大の警察署です。

規模が大きく忙しい署だという覚悟はしていましたものの、本当に事故・事件をはじめ、各種相談など、対応すべきことが非常に多くあります。

当署管内は特に交通事故が多く発生しており、10月末時点での人身事故件数は933件（前年比△40件）、物件事故件数は7,078件（前年比+383件）となっており、飲酒運転検挙

数に至っては79件と県下で一番多く、2番目が51件という数字を見れば突出した件数です。

「これぐらいの距離なら大丈夫」「飲酒運転ぐらい構わない」と考えている違反者も多く、当署においては引き続き飲酒運転を重点的に取り締まることとしております。

また、飲酒した本人が運転するのは論外ですが、飲食店が飲酒運転となるのをわかっていながらお酒を提供したり、仲間内で見て見ぬふりは絶対にしていたださい。

飲酒運転は命を奪うことにも繋がる危険な行為だということを忘れてはいけません。

次に注意いただきたいのが「交差点」「自転車」「高齢者」で、自転車関連と高齢者関連の事故はそれぞれ交通事故の3割を占めています。交通事故を減らすためにも、例えば交差点では信号と一時停止を守って安全確認、自転車はヘルメットを着用し、夜間はライト点灯、高齢者は斜め横断せず横断歩道を渡る、などを心掛けてください。

「私は大丈夫」の油断が特殊詐欺被害に

特殊詐欺の被害は一向に無くなる心配を見せません。

当署管内で多く発生しているのが架空請求、還付金詐欺で全被害件数の8

割を超えています。具体的には、架空

請求詐欺は、PC・スマホがウイルス感染したと、偽の警告を出して電子マネーを要求したり、還付金詐欺では、

どうやって還付と言いながらお金を取っているのか？と思うかもしれませんが、犯人はATMの前まで誘導し、携帯電話を介して「この数字を押して、次はこの数字」と言って巧妙に振込みへ誘導するのです。高齢者などは気付かない間に振り込まされているんですね。

こういったことを未然に防ぐには事業者の協力も必要です。コンビニや金融機関での声掛けによって水際阻止されたものもあり、薬局、病院、介護施設などでの注意喚起が有効です。是非ご協力をお願いいたします。

署員一丸で街の安全を守ります

日頃から署員には、我々にとっては数あるうちの1事案かもしれないが、その方にとってその1回は大変な出来事。被害に遭われた方などの心情に寄り添った対応をするようにとっています。

加古川署には420名もの署員がいるのです。その総合力は県下一であるはず。今後も皆さんの安全安心を守ってまいります。どうぞお気軽にご相談ください。